

第158号 発行日 平成22年2月6日

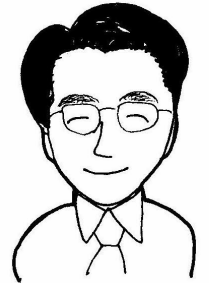
# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

人間のためと言いましても、自分のすぐ隣にいる人から始めるよりほかに仕方がない。

— 島崎藤村 —  
(詩人)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



## きのいのこい？

大学生時代の話です。東京の大学だったので学生は全国から集まってきます。とくに仲が良かったのは愛知県出身のN君と北海道小樽出身のT君でした。よくお互いの下宿を行き来して24時間付き合っていました。

あるときN君が僕の下宿に来て当時買ったばかりのVHSビデオでそのころ真夜中にやっていた「青春とは何だ」という昭和40年ごろの青春ものをビデオにとっていたものを観ていました。観終わると「じゃあちょっとビデオでも借りに行くか」ということになりレンタルビデオ店に行ったときの話です。

あれこれ物色し、まず比較的新作だった「さびしんぼう」大林宣彦監督、富田靖子主演を1本、当時は2泊3日で500円という料金でした。もう一本借りるか、ということになったのはいいのですが、二人合わせて残金300円ほどしかなく、「100円コーナー」を物色。N君は「さすが100

円、すごいがあるなー」とかいいながら、「このなかじゃ、『ビバップハイスクール』しかないんじゃないか」ぼく「いやその手のはちょっと」、N君「大魔神か」ぼく「いやそれも小学校のときテレビで見たしなあ」N君「じゃ『恐怖劇場アンバランス』しかねえな」ということになり僕はそれを手にとりタイトルを見て「きのいのこい？」というときN君は吹きだし「おまえそれ木乃伊って書いてミイラって読むんだよ」と笑われてしまいました。「こんな当て字読めるか！」とやり返しましたが、教養の差が出てちょっとくやしかった。くそーっ、いつか仕返ししてやる。と思いましたが、この「きのいのこい」の一件はその後なんかネタにされました。

## レンタルビデオ店

